



留学だより No.2

こんにちは。こちらでは秋が終わりかけてきたころです。この前の留学だよりでは寒くてダウンコートを着ていると書きましたが、なんと10月は9月よりも暑くてコートはいりませんでした。今年の9月は少し寒すぎて異常だったそうです。そして10月も例年より少し暑めだったそうです。

それでは、本題に移っていきます。

サマータイムの終わり

サマータイムとは、欧米で実施されている、夏に時刻を一時間早めて日が出ている時間を有効にしようとする取り組みのことです。日本でも昔はあったらしいですが、今はないので、このことについて書こうと思います。

これから冬になって日が出ている時間が少なくなるので、最近サマータイムが終わりました。どうやってサマータイムが終わるのかというと、ある日の夜中のとある時刻を二回繰り返して一時間遅れさせるのです。つまり普段通りの時間に起きると睡眠時間が自動的に1時間増えます。フランスではサマータイムの終わりは毎年10月最後の週末、と決まっているので、皆それに従って動いていきます。

サマータイムが終わった日の朝、私は自然に目が覚めて、スマホで時間(←自動で正しい時刻になる)を確認したらいつも起きる時間より一時間早かったです。その時は一時間早く起きただけだと認識していましたが、あとからサマータイムが終わったからだと思い出したときは「道理で」と思いました。ホストファミリーも一時間早く起きていたようで、一緒に散歩をしに行ったら日の出を見られたので、得した気分になりました。



←日の出直前の写真

ちなみに、この日は海に旅行中でした！大西洋です。雲が赤く染まって、とても迫力があってきれいでした。

バカンス

さきほど旅行に行っていたと言いましたが、今フランスの学校はバカンスで2週間休みです。フランスでは、6週間学校に行ったら約2週間バカンスがあります。今回は、「vacances de toussaint (トゥッサン)」という名前のバカンスで、「tous (すべて) の saint(聖



人)を称える」というカトリックの行事が元です。フランスはこの休みのほかに夏休み2ヶ月、 Noel 2週間、冬休み2週間、春休み2週間とバカンス大国なので、多くの世帯が自分の家の他に2つ目の家を持っています。

私は、このバカンス中にホストファミリーに「Les Sables d'Olonne (レ・サーブルドロヌ)」という大西洋に面した町に連れて行ってもらいました。(下図の赤い点) 家はスイスとの国境あたりにあるので車で9時間かかりました。

この町は、ホストファザーが子供の時に住んでいた地域で、ホストファザーの両親の二つ目の家がここにあるので、毎回このバカンスの時はここに来るそうです。

私たちは10日間ここで過ごしました。毎日計画もなく、散歩したりマルシェ(新鮮な市場)に行ったり自然の中でサイクリングしたり海に行ったりと、天気次第でやりたいことをやって過ごしました。とても自由でゆったりとしていていいな、と思いました。日本にいた時の休みの過ごし方とは大きく違いました。具体的に何が違ったかということ、時間に対する感覚です。日本にいた時は時間に追われていたのに、ここに来て、フランス人と一緒に過ごしていると時間を弄んでいるかのような感覚になりました。不思議でした。原因は、私は意識の違いだと思います。なぜかということ、「え、もう〇〇時?!」という時のリアクションが違

ったからです。日本にいた時私は、「もう〇〇時?!」の状況のとき、だいたい「△△しなきゃ」というセリフが後に続きます。でもフランス人は、そもそも時間の枠にとらわれずにやりたいように動いています。例えば、8:00 頃に起きて午前中は散歩したり読書したりして、飽きてきたら海水浴に行きます。ここでも、「飽きてきたら」というのがポイントで、時間を見てではなく、いつも自分の気持ちに従って動いていることが分かります。それから帰ってシャワーを浴びて 14:00 頃にお昼ごはんを用意して食べて、またゆっくりしているうちに、「もう〇〇時?!」の状況がやってきます。でも、「いやあ、時間がたつのは早いなあ、今日何したっけ」という感じで特に気にする様子もなく、そのままゆったり過ごしていました。バカンスで時間に追われない生活をして、心も身体も充電されました。



マルシェ全体の写真



魚屋の写真



サイクリングした道

アヌシー

前回の留学だよりで紹介すると言った、私の通っている高校がある町、アヌシー(Annecy)です。アヌシーは湖のほとりにある運河に囲まれた美しい街です。フランスのベネツィアと呼ばれ、中世の面影が残る旧市街はタイムスリップしたように感じます。正直にいうとまだ観光はしていないのですが、放課後や昼休みに友達とふらっとパンなど

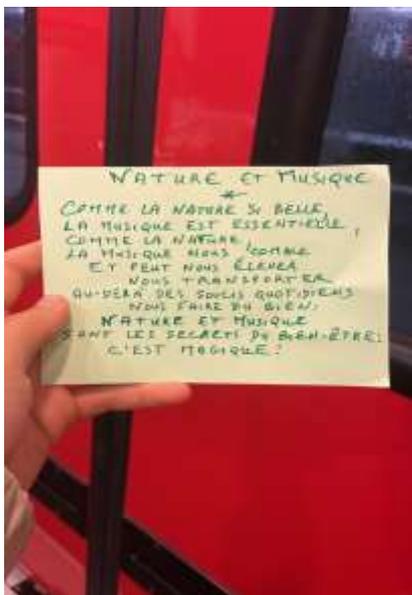
のお菓子を買って湖のほとりに行ったりしています。絵にかいたようなきれいな景色です。フランスの学校は日本みたいな部活がないので、アヌシーの学生は放課後にカフェによる、またはパン屋でお菓子を買って湖のほとりでおしゃべりをする、というのがルーティーンになっているみたいです。



駅ピアノ

私はいつも電車で学校に通っているのですが、アヌシー駅にピアノがおいてありました。私はピアノが大好きで、1か月前くらいから気づいてはいたものの、弾く勇気が出なくて近くに行っては去るといふのをしばらく繰り返していました。でも、ある日近くに行ったら、ピアノの周りでしゃべっていた三人組の人たちが「弾きたい？」と声をかけてくれて、「うん」と言っついに弾くことができました。弾き終わったときは、周りの人が「Bravo！」と拍手してくれて、声をかけてくれた三人組はびっくりして、もっと弾いて！とってくれたり、たくさん質問をしたりしてくれてとても嬉しかったです。音楽で人はつながるというのは本当なのだ、と実感した瞬間でした。三人組のうちの一人は電車があるので早めに帰ってしまったのですが、残りの二人とは30分くらいその場で一緒に話せて、楽しかったです。二人のうちの一人は、日本のアニメが好きでナルトのテーマソングを練習していると言って少し弾いてくれました。あと、「エリーゼのために」を弾きたいけど弾けないと言っていたので、少し教えたりしました。最後、帰るときに、私のピアノをずっと聴いていてくれた一人のおばあさんが、「素敵

な時間をどうもありがとう」と言って詩をプレゼントしてくれました。私も素敵な時間を過ごせて幸せでした。より一層音楽が好きになりました。



「自然と音楽が幸福になれる秘訣」
というのがこの詩の概要



駅ピアノの様子

À bientôt !

14期 吉沢